

# タイ

## 国際コラボレーション& 国際プログラミング コンテスト

2013年度から新しく単位化された科目です。タイ・ラジャマンガラ工科大学タンヤブリ校とのワークショップを軸とした双方向留学をすることにより、単位取得を目指します。各ワークショップで、異文化交流、英語力の向上を目指し、学生同士の友情を深めます。

開講学部:	経営情報学部 / 情報メディア学部 / 医療情報学部
種別:	選択 <span style="float:right">配当年次: 1・2・3・4年</span>
単位数:	2単位
開催時期:	夏期集中(8月中旬~9月中旬)
評価:	ワークショップでの作品の評価と、レポート・プレゼンテーションの内容により評価する。(「国際コラボレーション」・2単位)
留学先:	ラジャマンガラ工科大学タンヤブリ校 (RMUTT) / Rangsit-Nakhorn, Nayok Road, Klong 6, Thanyaburi, Pathum Thani 12110
電話:	0-2549-3441
日程:	8月中旬~9月中旬の8日間(予定)
申込期間:	各コンテストとも、5月上旬学内WDC作品応募締切
参加人数:	WEB 8名、ショートフィルム 6名、コンピュータプログラミング 4名(予定)
参加資格:	学内各コンテストで上位に入賞したもので、本学の在校生であり一定の学業成績をおさめたもの。
参加費用:	約50,000円 (留学費用については、一部を北海道情報大学が補助)

※別途食費、現地アクティビティ代、そのほかお小遣いなどが必要となります。  
※上記はあくまでも予定ですので、変更となる可能性があります。何卒ご了承ください。  
※上記はすべて平成26年度実績



### タイ「ラジャマンガラ工科大学・タンヤブリ校 (RMUTT)」への留学 ワークショップを通して国際交流を実践。

本学とRMUTTでの各大学で開催される学内各コンテスト上位入賞者であり、一定の成績をおさめた学生のみが参加できるワークショップ型の短期留学です。参加学生はタイと日本の双方を行き来することにより異国の文化を理解し、また共同制作というワークショップを通してかけがえのない国境を越えた友情を育むことができるプログラムです。プログラム中のコミュニケーションは英語で行われ、お互いの参加学生が英語の勉強を自然と学べるのも魅力のひとつです。

### ほほえみの国タイで友情を育もう。

留学先のRMUTTからバンコクまでは車で1時間程度で、現代的なビルが立ちならぶ中にも寺院や歴史的建造物があり非常に魅力的な街。また気候は温暖で、朗らかな人が多いタイで参加学生ものびのびと留学ができます。

### 国際交流の歩み

- 2006年 10月 RMUTTから教職員と学生が本学訪問。
- 2007年 本学教職員がRMUTTを訪問。
- 2008年 両大学による国際交流協定を締結。
- 2009年 3月 第1回 WEBデザインコンテスト開催。  
7月 理工学部長、工学部長が本学訪問。  
11月 RMUTT主催の国際学会 EMSES に参加。
- 2010年 2月 ナムユット学長以下8名の教職員が本学訪問。  
3月 第2回 WEBデザインコンテスト表彰式。
- 2012年 3月 第4回 WEBデザインコンテスト開催に伴い相互短期留学が実現。  
10月 第5回 WEBデザインコンテスト開催に伴い相互短期留学。
- 2013年 8月~9月 各コンテスト開催に伴い相互短期留学。
- 2014年 国際プログラミングコンテストも同時開催。



タイを代表する国立大学、タイ・ラジャマンガラ工科大学タンヤブリ校 (RMUTT) との交流は、2006年7月のブラジル・リオデジャネイロで開かれた国際学会「IUPAC MACRO 2006」への参加がきっかけでした。この学会に参加していた本学の穴田有一教授が、同じくタイRMUTTから参加していたチャイオット博士と出会い意気投合し、両大学の国際交流を打診されたのが始まりでした。同年10月、さっそくその実現のためRMUTT一行が本学を訪れ、ソムチャイ工学部長(当時)以下32名という大勢のRMUTT教職員が本学とSEOを見学しました。翌年2007年3月には、本学の井野学長(当時)と穴田教授がRMUTTを訪問し、両大学の教育、学術活動についての意見交換をしました。本学学長(当時)の訪問にRMUTT側も応える形で、同年RMUTTのナムユット・ソントンピタック学長ほか8名が本学を訪れ、表敬訪問しました。このような数回に渡る交流が積み重なり、2008年7月に両大学の国際

交流協定の覚書を交わし、これからの相互発展のために調印式を行いました。本格的に交流が始動したRMUTTと本学が、最初に取り組んだのは2国間によるWEBデザインコンテストの開催でした。このコンテストは参加学生が両大学を訪れ、WEB制作というワークショップを通じて異国文化を学び、友情を育むことができる大変有意義なコンテストとなりました。その後、他の共同コンテストも開催され、RMUTTとの交流は、これからも広がっていきます。

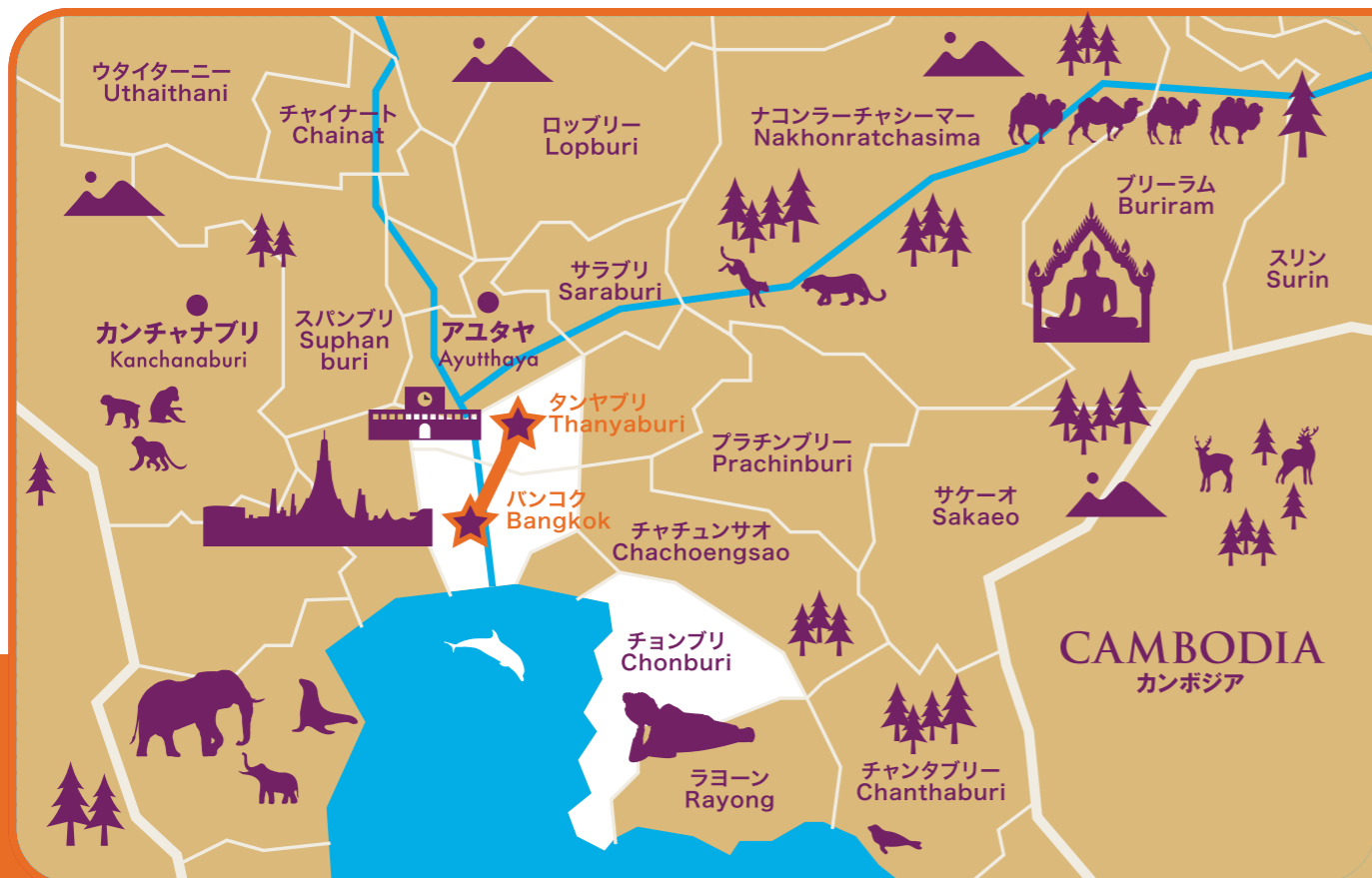




# THAILAND

古今の歴史と文化が調和し、仏教文化が息づく国。

東南アジアの中心に位置し、国土面積は約51万4,000平方キロメートル(日本の約1.4倍)。ミャンマー、ラオス、カンボジア、マレーシアと国境を接しています。人口は6,000万人で、山岳部にはそれぞれの文化や言語をもった少数民族が暮らしています。また気候は熱帯性気候で、一番暑い4月の平均気温は35度、一番涼しい12月の平均気温は17度です。



## RMUTT担当者からのMESSAGE

### ナッタ先生からのメッセージ

各コンテストに参加した皆様おめでとうございます。コンテストは愉快で、楽しく笑い合いながら友情を育み、生涯忘れることのできない大変貴重な経験となりました。RMUTTを代表して、私ども



がHIUの美しいキャンパスを訪れた際の皆様のお心遣いに感謝の意を表したいと思います。2015年度の各コンテストも楽しみにしています。

Asst. Prof. Dr. Natha Kuptasthien

Assistant to the President and Industrial Engineering Department Head, Faculty of Engineering

### ウラビス先生からのメッセージ

私が各コンテストに4度参加させていただいた中で目の当たりにしたことは、この活動が学生や教授陣が知識を得ることはもとより、文化の



差異を超えてお互いが学びあって良い関係を結ぶこと、そこから生まれる笑顔や親しみが、このプロジェクトを成功させる重要なポイントの一つだということです。

Dr. Uravis Tangkijviwat

Vice Dean, Student Development Faculty Of Mass Communication Technology

## バンコクってどんな街?

ほぼえみの国といわれるタイ。バンコクはタイ経済の中心、東南アジア屈指の大都市で、都内にはタイ国際航空やバンコク銀行、シン・コーポレーション・グループなどの大企業の本社があります。サイアムスクエアは、若者たちのトレンド発信地として有名なショッピングエリア。

巨大ショッピングビルだけでなく、おしゃれなカフェやオリジナルブランドを扱うショップが立ち並ぶ楽しいエリアです。また、日本人に大人気のタイフードも大いに楽しめます。本場のタイ式マッサージを受けてみるのもいいでしょう。バンコクならではの魅力は、なんととっても荘厳な寺院や歴史的建造物などにあります。金色に輝く寺院や仏像の美しさは、一見の価値があります。



## ラジャマンガラ工科大学 タンヤブリ校 (RMUTT) の特長

首都バンコクから約40kmの郊外にあるのがラジャマンガラ工科大学タンヤブリ校。工学部、理工学部、演劇・音楽学部、経営学部、教育学部、教養学部など10学部を有し、学生数2万人(大学院生を含む)、教職員数

約800人という大きな大学です。広大なキャンパスには学生寮や学生食堂、サッカースタジアムといった厚生施設が充実し、所在県の名前の由来になっている蓮の美術館「ロータス

ミュージアム」もあります。キャンパスの周辺は巨大な学生街で、夜にもぎやかな雰囲気にあふれています。ラジャマンガラ工科大学はタイ国内の各地に9つのキャンパスを持ち、タンヤブリ校はそのメインキャンパス。国際交流は非常に活発で、ヨーロッパとアジアを中心に世界中の大学・研究機関と交流協定を結んでいます。



### 2014年度 iWDC&iSFC Workshop II

9月	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日
9:00 10:00										
10:00 11:00	表敬訪問 基調講演(2)	作品制作	バンコク東急百貨店 東社長懇談会	文化研修 作品制作の取材	文化研修 作品制作の取材	作品制作	作品制作	作品制作	作品紹介	ワークショップ
11:00 12:00	オリエンテーション 学内見学			ウイーク エンド マーケット	アユタヤ見学					
12:00 13:00	移動日	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食	移動日
13:00 14:00								ワークショップの レポート 作成	成績会議	
14:00 15:00		作品制作		王宮見学	バンコク市内見学	作品制作		ワークショップの 作品紹介 練習	ワークショップの 作品紹介 練習	成績会議
15:00 16:00								iWDC・iSFC 合同表彰式	iWDC・iSFC 合同表彰式	
16:00 18:00										
18:00 ~	歓迎会								18:00- 送別会	18:00- 送別会

### 2014年度 iCPC Workshop II

9月	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日
9:00 10:00										
10:00 11:00		表敬訪問 基調講演(2)	企業訪問	バンコク東急百貨店 東社長懇談会	文化研修 ウイーク エンド マーケット	文化研修 アユタヤ見学	プログラミング	競	作品紹介	ワークショップ
11:00 12:00		オリエンテーション 学内見学								
12:00 13:00	移動日	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食	移動日
13:00 14:00								ワークショップの レポート 作成	成績会議	
14:00 15:00		プログラミング		王宮見学	バンコク市内見学	プログラミング		ワークショップの 作品紹介 練習	ワークショップの 作品紹介 練習	成績会議
15:00 16:00								iWDC・iSFC 合同表彰式	iWDC・iSFC 合同表彰式	
16:00 18:00										
18:00 ~	歓迎会								18:00- 送別会	18:00- 送別会



## コミュニケーション方法を考える機会になりました

### STUDENTS VOICE 1

**実習を通じて「メンバー」が「チーム」に変わる** 今年の春に学校の友人からこの制度を聞き、引率をして下さる教職員の方に相談したら「意志があればコミュニケーションはできる」と教わり、自分も行ってみようと思ったのが留学を志したきっかけです。RMUTTを訪れた当初は、タイの学生の語学力と映像作成能力の高さに驚き、ついていくことに必死でした。しかし、そんなタイの学生たちは適切に指示を出し励ましてくれました。そうする中で次第にチームのまとまりができてくるとともに、コミュニケーションの大切さを実感し、帰国後も常にどうすればプロジェクトが進捗するのか意識するようになりました。このような成長する機会を与えてくれた教職員の方と、周りの仲間たちにとっても感謝しています。

経営情報学部 先端経営学科 4年  
西川 晃央さん



### STUDENTS VOICE 2



情報メディア学部 情報メディア学科 4年  
茂木 悠菜さん

## タイ留学が自分の世界観を良い方向に前進させました

**気が付けば自然に英語で会話を** 1年生の頃からWEBデザインコンテストの海外留学制度は知っていましたが、実際に興味を持ったのは3年生の頃です。コンテストに参加して海外に行けるなんて凄いと感じ、挑戦する気持ちで留学を決意しましたが、それまでは一切WEBを制作したことがなかったので基礎的な知識を必死に学びました。日常の会話は上手くできていましたが、専門用語となると通じない部分も多く、日本でのワークショップIの時点では苦勞しました。それでもタイでのワークショップIIでは息抜きに会話ができるほどになり、会話で笑いあったりするのが楽しい思い出の一つです。留学の間に出会った人、学んだことは、私にとって貴重な財産になったと思います。

## 留学を通じて伝えることの大切さを実感しました

### STUDENTS VOICE 3

**自分が抱いていた英語の苦手意識を克服** 僕は1年生の時に中国に短期留学し、世界の広さと海外の楽しさを知りました。そして今年の4月にタイへの留学が可能ということを知り、もう一度海外で学びたいと応募しました。RMUTTでは、ICT技術についての知識を深めることができました。滞在中の会話はほぼ英語でした。自分の語学力ではうまく伝わらなかったのですが、円滑にいかなかったからこそ、伝えることの大切さと伝えることの喜びを知ることができたと思います。帰国後は、誰にでもわかるようなコードを書くこと、プログラムも英語にするように心掛けるようになりました。そして英語の苦手意識もなくなり、今では親しくなったタイの友人とSNSを使って英語で交流を続けています。

経営情報学部 システム情報学科 4年  
甲谷 凌大さん



## TEACHERS MESSAGE

世界に通用するスキルを身に付けるチャンス

自分が抱く「ワクワク」を実現する一歩を踏み出そう

留学を「検討している」人は、そこに何か新しいことが起こる「ワクワク」を感じていると思います。まずは飛び込んでみる事です。大きな勇気がいると思いますが、夢の実現につながるその一歩はきっと皆さんを大きく成長させてくれるはずです！

タイ留学は、英語でコミュニケーションを取ってソフトウェアを完成させる体験を通じグローバルなエンジニアのスキルを学ぶチャンスです。海外の人とのソフトウェア共同開発が増えている現在、非常に有用なスキルだと思います。勇気を出して参加して下さい。

情報メディア学部 情報メディア学科  
准教授 島田 英二



経営情報学部 システム情報学科  
准教授 齋藤 健司



飛び立て！この国から！日本でも、世界でも、しごとく

今まで本学の学生とタイの学生が共同作業することで、グローバルコミュニケーション力を身に付け、またお互いの文化背景を理解して、熱い友情が生まれてきました。この国を飛び出して、行動力や積極性を身に付ける機会を皆さんも掴んでください。

海外留学は、言語の習得だけでなく、その国の文化や考え方など、これまで知らなかった価値観に触れ、自分を大きく成長させるチャンスです。また、新たな友情を育むチャンスでもあります。これを機会に世界への第一歩をぜひ踏み出してください。

経営情報学部 先端経営学科  
教授 穴田 有一



情報メディア学部 情報メディア学科  
教授 隼田 尚彦



未知の価値観に触れて自分を成長させよう！





# HI WORLD

## GLOBAL ART PROJECT IN NEPAL

北海道情報大学の学生による有志団体「UNIPA」は自分たちが授業で学んだことを生かした国際ボランティア活動を行っています。2014年3月には、ネパールのポカラ市にて現地の子どもたちにアートを通じたワークショップを行ってきました。

### 国際協力で学んだことを未来に繋げる力に

今UNIPAが取り組んでいるのは、「がばん」をネパールに送るというプロジェクト。実際にネパールに行って目の当たりにした机のない学校の風景。地面に突っ伏して書き物をしないといけない子どもたちは、楽な姿勢で勉強することができないのです。このようにUNIPAの学生たちが大切にしていることは、支援にはいろいろな形があるので、現地で求められることを読

み取り、相手と分かり合える方法を模索しながら支援していくことです。また今回のネパール渡航で行った活動の反省を生かし、日本国内でのワークショップを数多く経験することや英語学習の取り組みなどにも力を入れてきました。この活動を通じて、学生のような面でのスキルアップを期待します。



### アートを通じた国際ボランティア

今回はアートを中心としたワークショップを、ネパールのポカラ市内にある3つの学校で行いました。

ネパールに行く旅費は、学生が作成したグッズ販売での利益でまかないました。グッズは、あらかじめ訪問する学校の子どもたちにイラストを送ってもらったものをUNIPAのメンバーがポストカードや缶バッジにしたコラボレーション作品で、それを様々なイベントで販売しました。その他にも協賛金や支援金を得ることができ、今回のネパールへの渡航が実現しました。また、ネパールの子どもたちにとっても自分の絵が商品となったことは自信につながると考えられます。

そしてその自信が子どもたちの人生の中のどこかで生きてく

ると信じています。現地での活動中には、学校で子どもたちから伝統的な踊りや歌、ネパールの言葉、食べ物や習慣などを教わりました。ネパールの学校での交流活動はポカラ地方の新聞に、札幌を中心に開催されたポストカードやステッカーの販売・展示の様子は国内の新聞メディアで取り上げられ、学生たちの活動や子どもたちの様子を広報することができました。今回のポカラにて国際協力の最初の一步である「繋がり」を作ることができました。その繋がりをより太くし、ネパールと日本に貢献していきたいと思ひます。



えへへ、  
楽しみです。

何も  
決まらなくて  
胃がイタイよ...

来月も  
ネパール  
です。

- 1 イラストを使って UNIPA自己紹介
- 2 ハンドペイントワークショップ
- 3 ハンドペイント完成
- 4 切り紙ワークショップ
- 5 切り紙完成
- 6 ゼロエミッションを終えて